

**収集感謝節
説教**

感謝をいけにえとして

＜詩編50：14～15＞

林 明 基 牧 師（京都教会）



はじめに

皆さんは韓国のサムスンという会社を知っていると思います。韓国最大の財閥であり、世界的にも時価総額16位の企業です。その会社の創業者は李秉喆という人です。彼は病気で早稲田大学を中退し、その後、韓国の大邱という町で起業して一代で韓国最大財閥の土台を築き上げた人です。

彼は晩年、知人のある神父に質問状を送っていました。その神父は彼の問いに答えられる適任者を探していましたが、1987年その働きも空しく、彼はこの世を去ってしまいました。

彼の問いとその答えは後に『忘れられた質問』という題で出版されています。彼の問いから、彼が起業家として、また一人の人間として悩んでいたことが分かります。ある意味、彼が死の目前まで求め続けた問いは私たちの問いでもあるのです。それは霊的乾きであり、おそらく彼はその渇きを潤すために、いろいろなところで答えを探していました。涸れた谷に鹿が水を求めるように。

1. 最終価値と手段価値

彼の問いは24個ありました。24個の問いすべてをご紹介することはできませんが、いくつかご紹介したいと思います。まず「神の存在をどのようにして証明できるのか。なぜ神は自分の存在をはっきり表さないのか。」また、「神は天地万物の創り主だが、何をもって証明できるのか。」その他にも神様の存在を問い、また人生についても問うていました。例えば「神が人間を愛したならば、なぜ苦しみと不幸、死が与えられるのか。」「神はなぜ悪人を造られたのか。」などなど。

彼が人生の最後まで求めていたものは何だったのでしょ

うか。
彼の問いを整理してみると「私が生きる理由とは何か」にまとめられるのではないかと思います。いわば、私たちの存在意義です。それについてその本を書いた神父はこのように答えていました。

人々は自分が好きなことを人生の目標にすべきではないか、と。どこに価値を置いて生きるか、です。まさに価値観の問題です。このような研究結果があります。アメリカの有名大学を卒業する学生たちに将来の目標について聞いてみました。1500人中、1245人はお金を稼げる事を優先し、

255人は好きな事を優先したいと答えていました。その20年後、その中から億万長者になった人が101人出ました。その101人の内、100人は好きな事を優先した人であり、1人がお金を稼げる事を優先した人でした。

どこに価値を見出すのか。価値は最終価値と手段価値に区分することができます。最終価値とは望ましい生き方に価値を見出すことです。例えば、億万長者になった100人のように好きなことを優先するような。それに対して手段価値とはお金を稼ぐことに価値を見出すことです。稼いだお金をどのように使うかによっても価値は変わら

ずしょう。
良いところに使えば価値は倍増するが、悪いところに使えば価値はなくなる。

私たちがどこに価値を置くかによって私たちの人生も大きく変わります。

2. 感謝をいけにえとして

聖書は私たちの存在意義について「神様の栄光を表すためである」（イザヤ43：7）と教えています。イスラエル民族はそのために選ばれた民族です。彼らは神様を礼拝するために奴隷であったエジプトから導き出されました。そして、彼らは種々の献げ物をもって神様を礼拝しました。

しかし、神様は「わたしが雄牛の肉を食べ、雄山羊の血を飲むとでも言うのか。」（詩50：13）と言われました。神様が私たちに求めておられるのは、そのいけにえではなく、そこに込められた感謝なのです。「告白(感謝)を神へのいけにえとしてささげ、いと高き神に満願の献げ物をせよ。」（50：14）とあるように、私たちが神様に献げるべきものは私たちの罪に対する悔い改める告白と神様への感謝なのです。

私たち人間は霊的渇きと不安を覚えて生きています。どちらかといえば感謝よりも不満の方が多いのではないのでしょうか。それは私たちが罪人だからです。でも神様は私たちの存在意義を「神様の栄光を表すことである」と教えてくれました。そのために、私たちは選ばれたのです。私たちが神様の栄光を表すことは、どのような状況であろうとも、それぞれの場所において神様に感謝を献げることです。感謝こそが神様の栄光を表すに相応しいいけにえです。感謝節を迎える今、どうか、すべての教会が神様に感謝を生きたいけにえとして献げることができますようにお祈りします。

宣教110周年記念 講壇掛・ストール販売

在日大韓基督教会110周年準備委員会は、大会を記念してKCCJのロゴ入り講壇掛・ストールを制作・販売しています。価格は講壇掛・ストール共4色セットで各1万円（約半額）講壇掛・ストール両方ご購入の場合は1万5千円です。



総会第2回常任委員会開催

第55回 定期総会 日程など決定

第54回総会期 第2回常任委員会が、2019年10月16日、大阪KCCにて開催され、常任委員24名中22名が出席して各種報告や案件審議を行った。

主な決議事項は次のとおりである。

- (1) 東京希望キリスト教会のエクロフ融資500万円の承認要請に関する件を承認。
- (2) 在日本韓国YMCAが要請した「2・8独立宣言100周年記念主日」を2019年2月3日(主日)、全国教会が記念礼拝として守ることを承認。
- (3) 熊本教会の「教会堂新築にともなう全国教会への募金」を承認。
- (4) 治理委員会が下した(2018年4月27日付け)東京教会5名の長老に対する停職処分に対して、5名の長老から、一切従わないという内容の「通告文」が送られてきた件は、治理委員会に回付することを承認。
- (5) 異端(カルト)宗教警戒対策研究会を、総幹事の主導のもとで設置することを承認。



- (6) 神学考試委員会細則(韓国語)の改正・日本語版作成を承認。
- (7) 夫婦共に牧師按手を受けて派遣された宣教師の受け入れに関しては、宣教協約に基づいて夫婦とも受け入れるべきであるという宣教委員会の請願を受け、具体的な受け入れ要項に関しては、神学考試委員会の宣教師考試基準(考試・招聘先など)を整える必要があり、神学考試委員会委ねて進めることにした。
- (8) 第55回定期総会を、2019年10月13日(主日)19:00~15日(火)17:00、名古屋教会(交渉)で開催することを決定した。
- (9) 次回の常任委員会は2019年4月9日(火)11:00、大阪北部教会で行うことにした。

青年会全協

第56回定期全国協議会開催 新代表委員に中野晃徳(名古屋教会)選出



去る9月23日(主)18時から24日(月・祝)にかけて、青年会全国協議会(以下、全協)第56回定期全国協議会(以下、総会)が川崎教会で開催された。

1日目は、開会礼拝により始まった。聖書の御言葉はエフェソ信徒への手紙5章16・17節であり、川崎教会の金健牧師より「時を良く用いて生きる」という題でメッセージをいただいた。青年期は将来ばかりに不安を抱えてしまうことが多いが、それにより何よりも大切な「今」を一生懸命生きることを忘れないようにという力強さの中にどこか包み込まれるような温かいお

言葉をいただいた。

総会へ移り、主に2017年度の活動内容を各部の青年より報告していただいた。2017年度の全協のそれぞれの活動が大きな意義を持っていたことはもちろん、それぞれの部の総括からは、この1年間苦労や葛藤がありながらも他者に関心を持ち、考え、歩んできたことが伺えた。青年一人ひとりを神様が祝福し、癒してくださっていると感じられる、恵み多き時間となった。

2日目は討議事項を話し合い、これからの全協をより良くしていくための有意義な時間となった。その後、役員改選を行い、2018年度役員として新たに9人の青年が選出された。役員の内6人が新しい顔ぶれとなり、神様が全協に新しい風を吹かせてくださることに大きな期待を抱いた。知識や経験は少ないかもしれないが、お互いに協力し合い、その中で神様の愛を感じ、役員全員が手を取り合い神様に向かって歩むことができる1年になることを心から願う。

総会の締めくくりとして閉会礼拝を捧げた。聖書の御言葉はルカによる福音書16章27~31節であり、盤石教会の曹泳石牧師より「彼らに耳を傾けるがよい」という題でメッセージをいただいた。全協が今後さらに発展していくために私たちが向かうべき方向性を示してくださる力強い内容であった。

代表委員：中野晃徳(名古屋教会)

副代表委員：張 晶 洙(川崎教会)

総 務：韓 潔(名古屋教会)

(報告：代表委員 中野晃徳)

西南地方会

讃美伝道集会を開催 尹亨柱長老招請「愛のコンサート」盛況

西南地方会の讃美伝道集会が、地方会伝道部主催で、2018年10月7日、8日 尹亨柱長老を招請し「愛のコンサート」として福岡教会で開催され、大盛況で終わった。

2018年10月6日土曜日の朝、台風の中で、福岡に到着した尹亨柱長老夫婦は、西南地方会の案内で、詩人尹東柱が1945年2月16日最期を迎えた場所である、旧福岡刑務所の跡地を訪問、献花をして、讃美と祈りを捧げた。

10月7日主日午後5時から、福岡教会で開かれた伝道集会は、西南地方会の各教会の信徒と日本の教会の信徒、「福岡・尹東柱の詩を読む会」の会員など約113名が集まった。尹亨柱長老に

よる「あなたは私のもの(イザヤ書43:1)」という題の讃美と証しは、たくさんの人々を感動させた。

次の日の午前9時半から、西南地方会の信徒セミナーも共に開催された。また午前11時から開かれた伝道集会には100名が参加し、尹亨柱長老による「神に仕える事(ルカによる福音書10:25-37)」という題の讃美と、信仰と教会生活の奉仕の証しが、強く伝えられ、大勢の人が感動する癒やしと恵みの時間であった。(報告：金仁果牧師)



中部地方会

岐阜教会新築入堂式^{挙行} 勸士就任式と名誉執事推戴式も



2018年9月1日、岐阜教会において、新会堂入堂式と崔美子勸士就任式、金初枝・井貝ゆり代名誉執事推戴式が執り行われた。

高誠牧師の司式で礼拝が始まり、鄭然元牧師(大阪教会)が「入堂と私たちの祈り」(列王記上8:41～43)という題で説教した。

続いて、崔美子勸士就任式、金初枝・井貝ゆり代名誉執事推戴式が執り行われた。

岐阜教会は、2016年7月に老朽化していた岐阜教会旧会堂が地震で破損されたため、新会堂が建つまで日本基督教団華陽教会を臨時礼拝堂として借用し、礼拝を守っていた。災害による緊急建築であったため備えがなかったが、全てを神様に委ね、信徒が一同となり祈りを捧げたところ、2年2ヶ月で新会堂が完成した。新会堂が完成するまでには、信徒の献身と我が教団の教会、日本、韓国、アメリカの教会の祈りに伴う尊い献金に支えられて入堂式に至った。

新会堂は、木造2階建てで、1階が教会施設、2階が牧師館に構成。太陽光発電、バリアフリー等の設備を取り入れ、環境と地域伝道に親しみやすい開放的な教会として建てられた。

西部女性会

広島で第31回修養会開催 在日同胞の歴史と原爆被害学ぶ



2018年10月2日～3日、第31回修養会を広島で開催した。(参加者 35名)

広島教会にて中江洋一牧師の導きのもと開会礼拝を捧げた。ルカによる福音書8章40節～56節より「違った

12年の人生を歩んだ女性たち」というテーマでメッセージをいただき、主に全てを委ね、主を信じる信仰者としての歩みを学び、豊かな信仰の身が結ばれた時間となった。

広島教会女性会の皆様が用意してくださった心のこもった食事を囲み、各教会との温かい交わりを持つことができた。その後「広島のみかしと今とこれから」のテーマで中江洋一牧師の講義があった。

まず、7月5日～6日未明にかけての西日本豪雨災害についての説明があり、まだ被害の全容がわからない状態であることを聞き、胸が締め付けられる思いであった。続いて広島での在日同胞の歴史について学び、多くは韓国プッチョン出身者が職を求めて、貧しさと差別に耐えながら、おもに土木関係の仕事などに携わっていたということであった。日本の

入堂式には、120名を超える来賓が参席し、主に感謝しながら喜びと恵みに満ちた礼拝と交わりをした。(報告：高誠牧師)

関西女性会

讃美フェスティバル開催 14教会女性会が讃美を競演



日キ・キンキ・コール聖歌隊

2018年9月9日(主日)関西地方教会女性連合会主催で第28回「みことばと讃美のフェスティバル」が大阪教会で開催された。

第1部の開会礼拝は関西地方会会長朴成均牧師(和歌山第一教会)により「だから、こう讃美しましょう」という題目で説教がなされた。

第2部は「みことばと讃美のフェスティバル」が進行された。関西地方教会の14チーム女性会が参加して讃美をもって神様に栄光を捧げた。

審査をする間に社会福祉法人サワリの「歌の会」、日本キリスト教会「日キ・キンキ・コール聖歌隊」の特別出演があった。引き続きそれぞれの賞を発表して賞状と賞品を授与した。今回はフェスティバル賞：堺教会、讃美賞：平野教会、みことば賞：大阪第一教会が受賞した。(報告：全早苗)

敗戦時に、広島には約10万人の朝鮮人が居住していたと言われるが、被爆者や死没者数は今も不明という。戦後かなりの年月を経た1971年に帰国被爆者問題への取り組みがようやく始まり、1978年には金信煥牧師の働きにより在韓被爆者の招請治療開始、被爆者手帳交付支援がなされた。

貴重な学びの時間となりみな心から感謝した。参加者は、これからも世界平和のために祈る決意を新たにすることができた修養会となった。(報告：大山京子)

中部女性会

名古屋で一日研修会を開催 権潤日牧師が旧約聖書テーマに講義

中部地方の女性連合会一日研修会が2018年7月18日(木)名古屋教会で開催された。

1部では、浜松教会の権潤日牧師が旧約聖書をテーマに講義をし、昼食後の2部では、浜松教会武田喜久子師母が、牧師師母としての生活を証した。

最後の時間に中部地方会女性連合会会長の名古屋教会宋福姫勸士の司会で中部地方会各教会のために、熱心に祈る時間を持った。(報告者：青年部長キム・ジンヒ)



関西地方会

サンクスフェスティバル開催 女性部・壮年部・青年部が共催で

関西地方会の女性部・壮年部・青年部の共催で第9回関西地方会サンクスフェスティバルが10月21日（主日）午後京都教会にて行われ、15教会（伝道所含む）から150名が参加するという盛況を収めた。

今回は「在日大韓基督教会宣教110周年」を迎え、「在日大韓基督教会の歴史と信仰継承」と題しての集いであった。

1部礼拝は朴栄子牧師（豊中第一復興教会）の「主を思い起こしなさい」（申8：11～18）と題しての説教があった。

2部には李清一牧師による講義で、在日大韓基督教会の足跡を顧み、覚え、在日大韓基督教会の未来のために信仰継承を準備する、という意味ある一時であった。



特に、李牧師の歴史と信仰継承に対する情熱が詰まったレジュメは、参加者を理解へと導いた。

3部交流会では各教会の女性会が準備され、また後援した食事で交わりをもち、このサンクスフェスティバルの集いをより豊かにしてくれた。今回のサンクスフェスティバルを通して、関西地方の活気ある未来が期待できる恵みの時間であった。今後より良いサンクスフェスティバルとなることを願う。

（報告：関西地方会青年部）

トロントに、在日同胞カナダ 宣教師展示室が開館



カナダのトロント近郊に「来韓カナダ宣教師展示館」がある。130年前、朝鮮半島北部と中国間島地域の福音伝道と近代化、そして民族の解放に寄与した180余名のカナダ人宣教師の献身と、その信仰的な遺産を未来に受け継ぐために、2011年に開館し、彼らの宣教の働きに関する資料を発掘、展示している場所である。

一方で、カナダの宣教師たちの朝鮮人伝道は、大日本帝国時代に日本に

暮らしていた在日同胞たちに対しても大きな影響を与えており、その働きは現在まで続けられている。1925年、カナダの諸教会が合流して合同教会となる中で、長老教会の一部がその動きに反して合同せず、カナダ長老教会としての歴史を続けることとなった。そのあおりを受けて咸鏡道での宣教から撤退することになったカナダ長老教会の宣教師、ルーサー・L・ヤング牧師は、カナダに帰国する途中に日本の関西地方に立ち寄った。そこで目にしたのは、日本に渡って暮らしていた多くの貧しい朝鮮人労働者たちであった。帰国した彼は、朝鮮の地で宣教できなくなった代わりに、日本に暮らす朝鮮人たちのための宣教をしてはどうか、と献議したのであった。こうしてカナダ長老教会は、1927年から正式に在日同胞宣教の第一歩を踏み出したのである。その当時まだ小さく弱かった在日朝鮮人教会は、カナダの宣教師たちの献身的な宣教活動に力づけられて、約十年の間に日本全域にわたって2倍の教会数を数えるようになった。また在日朝鮮基督教会が独自の憲法と組織を持った正式な教団として出発することになったのである。これまで90年の間、在日同胞の宣教に関わった34名の宣教師たちの功績は、この総会のあちこちに色濃く残っている。

日本における在日同胞宣教の大きな役割を悟った「来韓カ

ナダ宣教師展示館」の代表、黄ファニョン長老は、去る2018年1月に来日し、来日カナダ宣教師たちの活動に関する多くの資料を収集した。そして9月22日に「在日同胞カナダ宣教師展示室」を開館するに至ったのである。

展示室には、過去の祖国における宣教活動や、日本の地で寄留者として辛い生活を強いられていた同胞たちに救いと希望を与えた宣教師たちの活動、また解放後に日本に残り、差別と冷遇を受けながら生きた在日同胞の人権のために戦った宣教師たちの資料が展示されている。この展示室が、後世にとうとい宣教の足跡を示す学びの場所となることを願ってやまない。また、この展示館の設立者である崔ソンス長老、代表である黄ファニョン長老、総務である李ハンス執事の宣教的な情熱と献身に感謝を捧げたい。

この開館式に招待を受け、総幹事金柄鎬牧師と、ジョン・マッキントッシュ宣教師の子息であり、その働きを継いで在日同胞宣教のために活動しているデイビッド・マッキントッシュ宣教師が共に出席し、感謝の意を述べた。また、この資料展示室の開館にあわせ、2019年6月10日から13日にかけて、在日大韓基督教会の全国教役者研修会をトロントで開催出来るよう、準備をしているところである。



韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型
- 1483ページ
- 価格：2,500円
(消費税・送料込み)

※お求めは总会事務所へ